

ボランティア送迎×デジタル活用×地域連携による地域公共交通活用プロジェクト

応募様式A

自治会ごとの外出促進を支える任意団体「あじさいまごころ隊」

事業の基礎情報

実施主体	ショッピングリハビリカンパニー株式会社（いなべ市と包括連携協定を締結済）
事業実施地域	三重県いなべ市
共創の類型	他分野共創
他分野共創の類型	医療・介護・福祉、商業、まちづくり
共創パートナー	ひかり&ホープ(株)、イオン大安店、岐阜聖徳学園大学、J R 西日本、交通事業者（いなべ市、三重近鉄タクシー）
運行形態	①ボランティア活動による運送 ②道路運送法における許可又は登録を要しない輸送（共助交通）
運行主体	あじさいまごころ隊

現状・課題

（地域交通の現状・課題に関する分析）

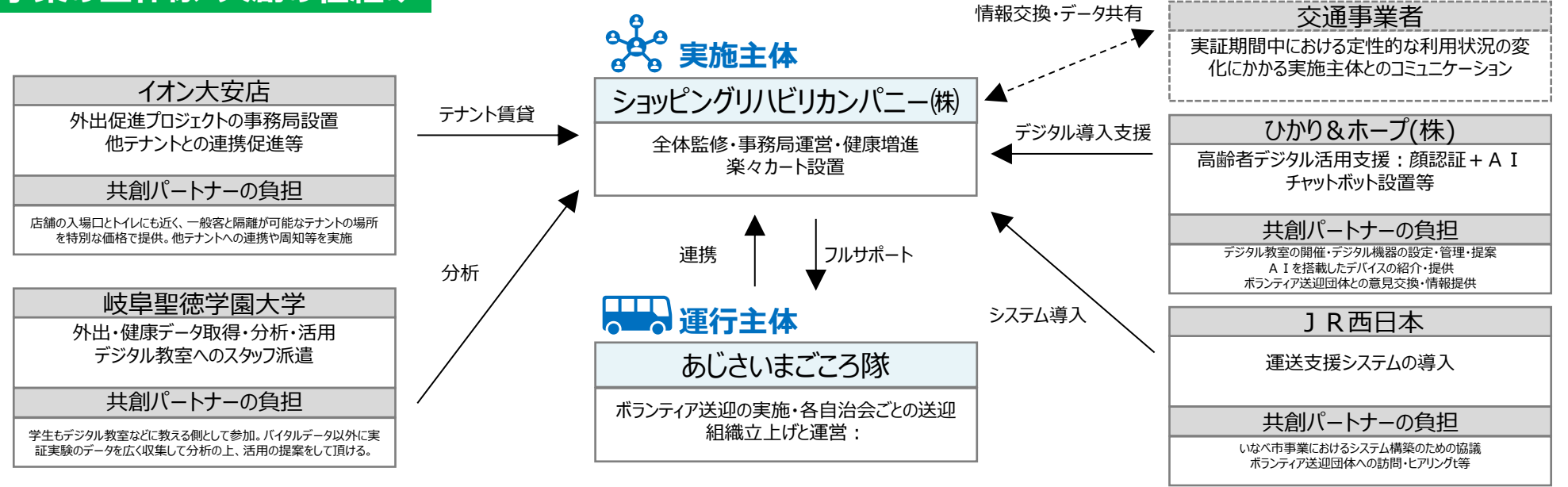
- いなべ市は広い市域に集落が点在しており、市民は「市内外を移動しやすくするための公共交通網の充実」と「高齢化でも安心して買物ができる便利さ」を求めている。そのような中、市内を巡回している無料福祉バスをカバーすべく令和4年度にダイハツ三重、ボランティア団体あじさいまごころ隊等の連携によるシェアカーの福祉利用（ボランティア輸送）を開始した。しかし、一部地域でボランティア輸送が既存の福祉バス等と競合している状況にあり、当該エリアでの公共交通サービスとの連携強化により移動サービス全体の利便性・生産性・持続可能性の向上が必要。
- 令和5年度デジ田を活用した「高齢者の介護予防政策」の実施により、高齢者のコミュニティ形成や生活習慣改善意欲の向上、サルコペニアからの脱出等がひかり&ホープ社により実証され、結果的に認知症予防や健康寿命の延伸への期待が高まる結果となったことから、当該事業との連携も必要と認識。

地域公共交通計画への位置づけ （位置づけ予定を含む）	無	運輸局・運輸支局への事前相談	・中部運輸局交通企画課 ・三重運輸支局
令和5年度共創モデル実証プロジェクトの補助有無	無		

ボランティア送迎×デジタル活用×地域連携による地域公共交通活用プロジェクト

自治会ごとの外出促進を支える任意団体「あじさいまごころ隊」

事業の全体像・共創の仕組み



取組の概要

(事業の概要)

- 地域住民が高齢者等に声を掛け合い、自宅から地域公民館等にボランティア送迎し、そこから皆で福祉バス等を使って外出できる環境を構築。
- 市内の生活利便施設の1つであるイオン大安店内に高齢者の外出目的地（通いの場）を新たに設ける。（安心して買い物できる便利さづくり）
- 担い手（ボランティアドライバー）の業務効率化向上を検証すべく、J R 西日本社の運行支援システム等を導入。
- 外出の効果を最大化するために、デジ田事業（介護予防事業）の他、健康データの取得、栄養指導など、通いの場で行政等多様な主体と連携する。

(地域の関係者との連携・協働)

- ボランティア送迎団体「あじさいまごころ隊」の要望が動機付けとなり、このプロジェクトがスタートした経緯があり、既に自治会への周知も行っている状況。
- いなべ市およびいなべ市社会福祉協議会は過年度より協力・支援を頂けている状況。交通担当課に交通事業者への声掛け・バックアップ依頼を実施済。
- 多様な民間企業や大学より積極的なプロジェクトへの関与にかかる申し出があり、今回の産官民学の連携（当該事業への申請）に至った。

(地域公共交通ネットワークや既存交通との関係性)

- あじさいまごころ隊の活動に対してはご期待を頂いており、福祉バス受託事業者に事前共有する協議や、電車やタクシーについてもお出かけ訓練のフィールドの幅を広げる予定であり、まずは福祉バスからスモールスタートし、小さな成功体験を糧に各交通事業者と連携を深めていく予定。

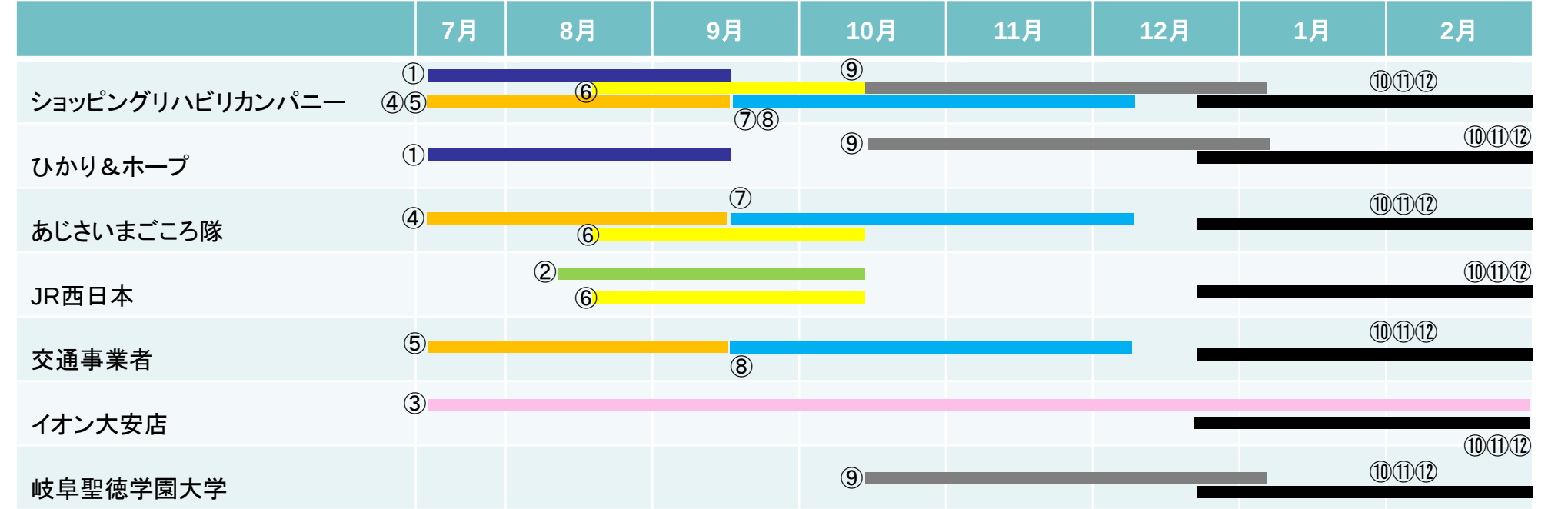
ボランティア送迎×デジタル活用×地域連携による地域公共交通活用プロジェクト

自治会ごとの外出促進を支える任意団体「あじさいまごころ隊」

事業実施手順・スケジュール

①いなべ市デジ田事業「高齢者デジタルライフ事業」と連携した顔認証+AIチャットボットの準備・設置	④ボランティア輸送の準備・実施 (その1：システム無しパターン)	⑦ボランティア輸送の準備・実施 (その2：システム有りパターン)	⑩事業全体報告会 (関係者によるグループヒアリング)
②運行支援システムのカスタマイズ・テスト・教育訓練・導入	⑤既存公共交通側の準備・実施 (その1：システム無しパターン)	⑧既存公共交通側の準備・実施 (その2：システム有りパターン)	⑪事業成果とりまとめ
③イオン大安店における「通いの場」の準備・設置	⑥利用者・ドライバーの説明会	⑨事業モニタリング・データ分析 (利用者・ドライバー評価等等)	⑫事業報告書の作成・提出

(スケジュール案)



ボランティア送迎×デジタル活用×地域連携による地域公共交通活用プロジェクト

応募様式A

自治会ごとの外出促進を支える任意団体「あじさいまごころ隊」

取組の詳細

（地域交通にもたらされると想定される効果）

- お出かけの障壁となる「ひとりボッチ感」や「バスの乗降でのモタツキ」等にかかる気兼ね・不安を「みんな一緒」「お互い様」の想いのもと、この事業で取り去ることにより、確実に日常生活の質を高め、公共交通を適切に利用した生活スタイルを構築することで、乗る「クセ」をつけ、大幅な地域公共交通の利用増を図る。
- デジ田事業と同様、送迎時に顔認証＋A I チャットボットを投入することで移動データが取得でき、交通事業者とデータ共有することでマーケティングが可能。
- “住民皆で市の輸送資源全般を偏りなく利用しつくすこと”を目指すことでボランティアドライバーの負荷を軽減し、地域公共交通の持続可能性の向上を図る。

（地域全体に及ぶと想定される効果）

- イオン大安店の利用データや“通いの場”での体組成計データなどを移動データに突合ができ、経過を可視化。多様なO Dデータを取得、分析、活用が可能
- 自治会で地域内送迎＋バスなどの利用支援サービスを実装できれば、地域内で声を掛け合っの外出促進が可能となり、独居や閉じこもりがちな高齢者の見守りだけでなく、健康寿命の増進、希薄になった地域コミュニティの再生、地域セキュリティの向上なども望めます

※特に以下の効果が想定される場合は、その項目に○をつけ（複数選択可）、当該内容について上記に具体的に記載してください。

☐	新たな移動手段の創出や各種送迎への地域住民の混乗などによる、地域住民の利便性向上	☐	貨客混載や各種送迎の公共交通への集約など、交通事業者や地域の関係者の生産性向上
☐	乗降データを取得する等、データを活用して、事業検証ができる環境整備	☐	通院者や商業施設の利用者に関する情報など、他分野の移動需要に関するデータの利活用

（補助事業実施後の予定）

- 運行支援システム等を実装して、負担の少ない地域内ボランティア送迎の仕組みを構築。各自治会に広げていき、みんなで集まってバスなどにのる取組をすすめて、地域交通を使ったことがない人を減らし、利用をあきらめていた方も地域の方々に支援をしてもらいながら乗れる環境を地域の皆と作り上げる。
- 商業施設に新たに設ける「通いの場」についても、介護事業の他、外出の効果が最大化できる連携を広げていき、高齢者が安心して出かけられる場所の増加にも挑戦する。本事業で連携できた交通事業者と更に連携を深めていき、自治会ごとの外出促進任意団体「あじさいまごころ隊」と正式なプラットフォーム作りをすすめ、ボランティア送迎と多様な地域交通のシームレスな接続を目指す。
- 実証後における将来的な利用者負担のあり方については、実証の結果（モニタリング）や関係者などとの協議を経て調整・検討していく予定。

資金面	シェアカーの利用料は市役所からの委託費で支払い。いなべ市社会福祉協議会の車両2台を送迎に共有。
人材面（運転手の確保）	運転手について市の広報や社会福祉協議会の広報等ですでに募集をかけて頂けている状況